

令和 4 年 6 月 30 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15H03156

研究課題名(和文) ヴィシュヌ教からシヴァ教へ インド中世の始まりにおける宗教文化の転回

研究課題名(英文) From Vaisnavism to Shaivism: A shift of religious culture at the inception of the Mediaeval India

研究代表者

横地 優子 (Yokochi, Yuko)

京都大学・文学研究科・教授

研究者番号：30230650

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、インドにおける中世の始まり(6世紀頃)において、ヒンドゥー教の主流がヴィシュヌ信仰からシヴァ信仰に転換することに注目し、文献資料と図像資料を併用して当時の両信仰の神話や教理を検討することで、インド中世前期の宗教文化の特徴を古典期と対置して明らかにした。なかでも『スカンダプラーナ』(550-650頃)という、シヴァ神話を体系的に叙述した最古の文献において、ヴィシュヌの化身神話がシヴァ神話の中でどのように包摂されているかを詳しく分析した。また最古のシヴァ教宗派であるパーシュパタ派のヨーガが、有名なパタンジャラではなく、ヒラニヤガルバのヨーガ体系に基づいていることも明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

インド中世前期の宗教について、専門的な宗教者の説く教義や思想ではなく、その社会の普通の人たちに向けられた神話や寺院遺跡の図像などを資料として使うことによって、当時の社会の中で宗教文化がどのような役割を果たしたのよう受容されていたかを知ることができる。また、学術的意義は、特に、インドの宗教文化を知る上で非常に重要であるプラーナ文献の一つについて、学術的に信頼しうる校訂本を英語のシノプシスおよび研究と共に出版したことにある。また、初期ヨーガ史に関して、パタンジャラの体系を最重要視するこれまでの定説を打破し、ヒラニヤガルバのヨーガ体系の重要さとシヴァ教ヨーガへの連続性を提唱したことは重要である。

研究成果の概要(英文)：At the inception of the mediaeval India around the 6th century, the dominant stream of Hinduism shifted from the worship of Visnu to that of Shiva, which is the main topic of this research. Using textual and iconographical sources and comparing the myths and doctrines of the two religious systems, I have presented some features of religious culture of the mediaeval India in contrast to the classical period. Above all, how several manifestation myths of Visnu are incorporated in the Shaiva mythology in the Skandapurana (ca 550--650), the oldest work that narrates the Shaiva mythology systematically, have been analyzed. In addition, it has come to light that the yoga system of the Pasupata, the oldest Shaiva sect, is based on the Hiranyagarbha's yoga system rather than the well-known Patanjala system.

研究分野：サンスクリット文献学

キーワード：インド哲学 ヒンドゥー教史 ヒンドゥー神話 ヨーガ パーシュパタ シヴァ信仰 プラーナ文献

## 1. 研究開始当初の背景

南アジアの歴史学において本格的な中世史研究が開始され、「暗黒の中世」という画一的イメージが覆されるのは1970年代以降である。特に中世前期についてはBrajadulal Chattopadhyaya (代表作としてThe making of early medieval india. Oxford Univ. Press, 1994など) などの研究により、古典期(グプタ朝)において確立したサーマンタ体制やヒンドゥー文化が周辺地域に広まり、地域国家・地域文化が形成されていく時代という歴史観が現在広く受け入れられている。一方、中世前期の宗教文化については、主たる文献資料となるプラーナ文献、タントラ文献の批判的校訂研究の欠如のために研究の進展が阻まれてきたが、90年代以降そのような状況に著しい変化が生じている。まずタントリズムの源となる初期のシヴァ教タントラ文献の校訂出版が徐々に進むことによって、その全体像が明らかになってきている。またAlexis Sandersonの一連の画期的な論文("Saiva Age" 2009等)によって、中世前期の南アジアと東南アジアにおけるシヴァ教タントラの諸宗派と王権の密接な関わりも解明されてきた。ヒンドゥー教神話の語りを核とするプラーナ文献については、シヴァ教神話を体系的に語る最古のプラーナ文献であるスカンダプラーナの校訂研究の進展などにより、シヴァ教タントラ(マントラ道)の先駆となるパーシュパタ派の動向、そのプラーナ文献製作との関係、王権との関係などが明らかになりつつある。

ヒンドゥー教史の観点からみると、ヴィシュヌ(クリシュナ・ヴァースデーヴァ)とシヴァ(ルドラ)の各々を最高神とする一神教の成立はともに紀元前2世紀ころに遡ることができるが、ヴェーダの宗教・神話を融合させ最初にその教義や神話体系を発展させたのはヴィシュヌ教である。その過程は二大サンスクリット叙事詩、特にマハーバーラタに含まれるギーターとナーラーヤニヤ章、および補遺であるハリヴァンシャに跡付けることができる。さらにグプタ朝(4~6世紀半ば)の王は「最高のバーガヴァタ(ヴィシュヌ教信徒)」であることを自称し、その信仰はグプタ朝を模範とする他の王朝にも影響を与えた。ヴィシュヌ信仰を中核にすえた最初のプラーナ文献であるヴィシュヌプラーナ(5世紀頃)は、この古典的ヴィシュヌ教の到達点とみなすことができる。しかしグプタ朝の崩壊後、中世前期に登場する諸王朝の大多数はシヴァ教を信奉し、「最高のマーヘーシュヴァラ(シヴァ信徒)」を自称する。そうした状況の下、強固なシヴァ信仰に基づきシヴァ神話を体系的に語る最古のプラーナ文献であるスカンダプラーナ(550-650頃)が編纂される。このような歴史認識の下で、古典期のヴィシュヌ教と中世初期のシヴァ教を比較し、両者の差異、ヴィシュヌ教からシヴァ教への転回の理由を探求することは、現在進展中のインド中世前期の研究に大きく貢献することができるであろう。古典期のヴィシュヌ教および個々のヴィシュヌ神話についてはすでに優れた研究の蓄積があるため、これらの研究を進展中のシヴァ教研究に基づいて再吟味し、両研究を総合することによって展開期の様相、その背景・原因を解明することができると思われる。

申請者は1996年よりこのスカンダプラーナの校訂研究プロジェクトに参加、2005年からは中核メンバーとして研究を推進している。このプロジェクトはこれまで神話を主体とする文献の性格のために歴史的研究が不可能と考えられてきたプラーナ文献の中で、厳密な批判校訂版の作成に基づく初めての歴史的研究として高く評価されている。2014年までに、全体のほぼ3分の1にあたる第69章までの校訂研究・出版を終え(Vol.1, 2A, 2B, 3)、テキストの編纂に関わる諸問題(成立年代、編纂グループの性格等)、編纂時の政治・文化状況とテキスト編纂の関わり等をほぼ解明することでプロジェクトの第1段階を終えた。続いて2015年から第4~6巻(第70~129章)の出版をめざす第2段階を開始したが、この第2段階に含まれる部分には、よく知られたヴィシュヌ神話をシヴァ信仰の元に改変したものが多数含まれているため、この第2段階の推進にはそれらの元となるヴィシュヌ神話との比較研究、またシヴァ神話体系の中での役割の解明が必須である。

## 2. 研究の目的

以上の研究背景およびこれまでの研究の問題点から、本研究課題ではヴィシュヌ教からシヴァ教への宗教文化の転回点に注目し、古典期のヴィシュヌ教と中世初期のシヴァ教を比較検討することにより、中世前期の宗教文化の特徴をより明確にすることをめざす。この目的を達成するために3つの視点から多角的に研究を進め、最終的に各々の成果を総括する。これは、A 神話・神話体系の比較、B 教義・宗教実践の比較、C 政治・社会的背景、特に各宗教の王権との関わり、の3点である。ただし、Cについては経費の関係で十分な研究を行うことができなかつたため、以下ではAとB各々の目的と到達目標を述べる。

A 神話・神話体系の比較(研究体制・方法論の違いに基づきA1~A3に区分する)

A1: スカンダプラーナ校訂研究

上記のスカンダプラーナ校訂研究プロジェクトの継続であり、国際共同研究として遂行する。

本研究課題では第2段階の前半として、第4巻（第70～95章）の校訂研究の完成・出版と第5巻（第96～112章）の準備を行う。

#### A2：シヴァ教遺跡・図像研究

サンスクリット文献はその作者となるバラモン階級の価値観を反映し、また思想面に偏る傾向があるため、宗教文化の実相に迫るには碑文や寺院遺跡その他の考古学・美術史資料を併用することが望ましい。特にスカンダプラーナの場合には、神話がしばしば現実の地理上の聖地の縁起譚として語られるので現地調査は必須である。このため文献研究と平行して、上記の宗教文化の転回点となる5～8世紀を中心としてその前後も含めたシヴァ教・ヴィシュヌ教遺跡の調査を行う。ただし、グプタ期のヴィシュヌ教遺跡・図像に関してはすでに研究の蓄積があるため、シヴァ教遺跡、特に以下の2点を備える遺跡の調査を重点的に行う。(1) 前研究課題においてスカンダプラーナに言及されるシヴァ教聖地の多くについては現地調査を遂行したが、その中で追加調査が必要なもの（Kalinjar, Kotivarsa等）、および未調査のもの（Shrishaila等）。(2) シヴァ神話を表象する図像をもつ初期の作品群を多数含み、各地域の王朝の庇護下で建設された寺院遺跡（Ellora等）。これらの調査を通して各々のシヴァ神話の地理的分布、シヴァ教神話による王権の表象方法を検討する。

A3：A1の成果に基づきスカンダプラーナに含まれる、ヴィシュヌ神話を改変した個々の神話について、先行する個々のヴィシュヌ神話の発展段階と比較してどの段階に対応するかを確定した後、改変の方法・意図を検討する。さらに神話の体系化に関して、シヴァ教についてはスカンダプラーナ、ヴィシュヌ教についてはハリヴァンシャとヴィシュヌプラーナを対象として、体系化の方法の相違を明らかにし、その動機として各々が体系化された時代の要請の相違を考察する。また、宮廷詩人によって作られ王権との関係が深いカーヴィヤ文献（詩・小説・戯曲）にみられるシヴァ教・シヴァ神話の研究も並行して行い、シヴァ神話による王権の表象およびシヴァ教と各地域王朝との関係を実証的に明らかにする。

#### B：教義・宗教実践の比較：一神教ヨーガ研究

教義・宗教実践は多岐にわたるため、文化的影響力が大きくかつ宗教横断であるという観点から、本研究課題のこの側面では、対象をヨーガの理論（サーンキヤ説など）・実践に絞る。スカンダプラーナの第174～183章（最終章）は「パーシュパタ・ヨーガ儀規」という独立した名称を与えられ、シヴァ教パーシュパタ派の教義・実践を伺える新資料として非常に重要である。申請者は前研究課題においてすでにこの部分の研究を開始したが、写本伝承の問題などもあり、シヴァ教タントラのヨーガの先駆となることは明らかであるが、さらに詳細な研究は単独では非常に困難であり、より多面的な研究が必要であることが判明した。そのため、ここではマハーバーラタに含まれるバガヴァッド・ギーターなどに見られるヴィシュヌ教のヨーガ、先行する文献に含まれるヨーガ・サーンキヤに関連する記述、後続するシヴァ教タントラ中のヨーガ、これらとの比較を通じてヴィシュヌ教、シヴァ教各々のヨーガを初期ヨーガ史の中に正しく位置づけることを目指す。この二種のヨーガに対し、参照対象となるのは一神教的信仰を背景にもたないパータンジャラのヨーガ体系である。後者についても、近年最古の複注であるVivaranaのより良い校訂本の作成・研究が進展中であり、その最新成果を利用する。本研究はパータンジャラのヨーガ体系を「古典ヨーガ」として絶対視する従来の初期ヨーガ史の再検討にもつながるであろう。

### 3. 研究の方法

対象とするインドの古典期から中世初期への宗教文化の転回という現象を包括的に解明するために、本研究では多様な視点と方法論を組み合わせている。具体的には、A 神話・神話体系の比較研究、B 教義・宗教実践の一つとしての一神教ヨーガ研究という2つの視点からの研究を総合して行い、それぞれについて異なる研究組織・方法を用いる。Aは組織・方法の相違によりさらに3分されるが、まずA1は厳密な文献学の方法論に基づく国際共同研究、A2は考古学・美術史・図像学に基づく個人または合同の現地調査、A3はA2の成果を利用しつつも、基本的に文献学に基づく個人研究である。Bは文献学に基づく思想研究であり、国際共同研究として行う。最終年度に研究全体の総括として国際シンポジウムを企画する。副課題ごとの研究体制と方法は以下のとおりである。

#### 副課題別研究組織と方法

##### A 神話・神話体系の比較研究

A1 スカンダプラーナ校訂研究：横地優子（研究代表者）、Diwakar Acharya京都大学准教授（連携研究者）、Peter Bisschopライデン大学（オランダ）教授、Judit Torzsokリレ大学（フランス）講師、Sanne Dokter-Merschライデン大学（オランダ）博士課程学生、Hans Bakker Groningen大学（オランダ）名誉教授（以上、海外研究協力者）

本研究はBisschopを代表者としライデン大学に拠点を置く研究（オランダ学術機構NWOに今年末に研究費を申請予定）と横地を代表者とする本研究課題との共同研究として行う。これまでの経験によると、研究を順調に進めるためには半年に1回、半年分の成果について1～2週間程度の集中的な合同討議を行うことが望ましい。そこで毎年8または9月にライデン大学にて、3月に

京都大学にてこの集会を行い、ライデン開催時の費用はBisschopのNWO研究費で、京都での開催費用は本研究課題が負担する。研究方法としては、すでにこの校訂研究の第1段階にて確立している厳密な文献学的批判校訂に従う。第4巻は横地・Acharya・Torzsokにて、第5巻は横地・Torzsok・Dokter-Merschにて校訂を分担し（横地が校訂全体の監修）、Bisschopがシノプシスの作成を担当、Bakkerは昨年までのこの校訂研究プロジェクトの主幹として助言、査読を行う。A2 シヴァ教遺跡・図像研究：研究代表者の単独研究であるが、遺跡の現地調査はチームで行う方が効率がよくかつ安全であるため、A1の成員と連携して調査計画を立てる。A3 ヴィシュヌ神話からシヴァ神話へ：研究代表者の単独研究であるが、A1の集会の際に、BisschopのNWO研究プロジェクトと研究の進行状況・成果に関する情報交換を行い、連携をとって進めていく。

B 一神教ヨーガ研究：国際共同研究として行い、各々の専門分野に従い研究を分担する。横地優子（研究代表者）：パーシュパタ・ヨーガ儀規・マハーバーラタ中のヴィシュヌ教ヨーガとの比較

Diwakar Acharya（連携研究者）：パーシュパタ儀礼・教理、ヴェーダ文献中のヨーガとサーンキヤ関連記述

Somadeva Vasudeva 京都大学特定教授（連携研究者）：シヴァ教タントラのヨーガ  
張本研吾 ハンブルグ大学非常勤講師（海外研究協力者）・金菱哲宏（京都大学博士課程学生・研究協力者）：複注Vivaranaの校訂研究に基づくパートアンジャラ・ヨーガの再検討  
高橋健二（京都大学修士課程学生・研究協力者）：マハーバーラタとヴェーダ文献中のサーンキヤ関連記述

京都大学を拠点として年に3、4回の研究会を開催し、研究成果報告を行う。研究会には、必要に応じて国内外のヨーガ研究者を講師として招聘する。また国内のヨーガを研究する学生・研究者に広く参加をよびかける。A1の構成員であり、パーシュパタ派の基本経典であるパーシュパタ・スートラと注釈の校訂・翻訳を行っているBisschopとBakkerにも協力をあおぐ。

#### 4. 研究成果

まずA1については、スカンダプラーナ第4巻（第70～95章）および第5巻（第96～112章）の校訂研究を、各々2018年と2021年にBrillからOpen Accessできる形で出版した（Gonda Foundationの資金援助による）。すでに述べたようにこの両巻で校訂を行った章は、当時の有名なヴィシュヌの化身の神話をシヴァ神話体系の中にとりこんでいる。その研究成果（A3に相当）は両巻のIntroductionにBisschopと横地の共同執筆として公刊した。その要点は以下のようにまとめられる。

- (1) この両巻およびこれから校訂する第6巻では、ヴィシュヌの化身の神話だけではなく、ヴァーユプラーナ等の古いプラーナ文献に記載されるデーヴァとアスラの戦いのリストをテンプレートとして使用している。その際に、アスラの系譜が語りの進行の基礎となっており、またヴィシュヌの化身に討伐されるこのアスラたちはすべてシヴァ信者として描かれている。この点に王族等のエリート層に支持されていたヴィシュヌ教と、より民衆的な信仰対象であったシヴァ教の対比を見ることもできる。
- (2) 一方、ヴィシュヌはシヴァから何度かにわたってパーシュパタの教えを受けることになり、ここには、王のイメージを投影されたヴィシュヌにシヴァが教えを授けるという形で、王族たちをパーシュパタ信仰にとりこもうという意図を読み取ることができる。
- (3) ヴィシュヌはアスラを討伐するという役目をシヴァから与えられると同時に、人獅子や猪などの化身の姿から本来の姿に戻るためにもシヴァの助力を必要とする。このような形で、当時よく知られていたヴィシュヌの化身神話をそのまま語りつつも、シヴァを優位とするエピソードを付加することで、シヴァを上位とした上でヴィシュヌ信仰をその下位に包摂しようとしている。

A2については、初期チャールキヤ朝の遺跡（Badami, Aihole, Pattadakal）を中心として、より後期のAlampur遺跡を含めた現地調査と、エローラを中心とした現地調査を4名のチームで行った。どちらの遺跡もヴィシュヌ寺院とシヴァ寺院が混在しているが、より古いヴィシュヌ寺院からより新しいシヴァ寺院へという変遷を読み取ることができた。特にエローラのラーシュトラクータ期の石窟寺院では、ヴィシュヌ神話とシヴァ神話、各々に基づく図像が混在するが、シヴァ神話についてはいくつかの新しい図像が出現し、当時のシヴァ神話の興隆と拡散を確認することができる。ただしAlampurと初期チャールキヤ朝の遺跡群に関しては、準備段階の予想以上に量が多く、日程内で十分な調査を行うことができなかつたため、今回の調査結果をもとにして再調査を行うことが望ましい。

A3については、上記A1の項で記したが、それ以外に9世紀後半にカシミールで著わされた長編詩『カッピナ王の興隆』の研究を単独で行った。この作品の著者シヴァスヴァーミンはカシミールの王朝が初めてシヴァ教を第一の宗教としたウトパラ朝の初代の王アヴァンティヴァルマンの宮廷詩人であり、仏教説話を主筋に使いながらシヴァ教信仰を作品の中に忍び込ませて

いると思われる点などに、当時のカシミールにおけるシヴァ教への転換を間接的にはあるが反映している。

Bについては、横地によるスカンダプラーナ中の『パーシュパタ・ヨーガ儀軌』前半部の校訂研究、張本によるヒラニヤガルバ・ヨーガ研究、ヴァースデーヴァによる『ヨーガ・ヤージュナヴァルキヤ』の校訂研究、高橋によるアディヤートマ思想研究を主たる成果として挙げる事ができる。これらはすべて研究会における討論・検討を経ている。まず張本により、古典ヨーガとみなされているパタンジャリの体系より古いヒラニヤガルバのヨーガ体系が存在したことが明らかにされた。この体系のヨーガの定義はヴァイシェシカ・スートラ中のヨーガの定義に反映されている。次に横地は、パーシュパタ・ヨーガはこのヒラニヤガルバ・ヨーガに基づいている可能性が高いことを明らかにした。このヒラニヤガルバ・ヨーガからパーシュパタ・ヨーガへという伝統は、ヴァースデーヴァが専門とする中世のシヴァ教タントラのヨーガに受け継がれており、紀元前後頃から中世にかけてのヨーガの伝統の一大潮流であったと思われる。一方、パタンジャラ・ヨーガは認識論等の思想面を詳しく扱っており、ヒラニヤガルバに発する伝統がヨーガの実践方法を主とするに対し、パタンジャラは哲学の一学派としてのヨーガ学派を打ち立てることを主眼としていたのではないかと思われる。またパーシュパタ派に包摂されたサーンキヤのtattva説については、パーシュパタ・スートラからパーシュパタ・ヨーガ儀軌、さらにシヴァダルモッタラのパーシュパタ・ヨーガへと発展する過程を読み取ることができる。

一方、ヴァースデーヴァによる『ヨーガ・ヤージュナヴァルキヤ』の校訂研究は、ヨーガと呼ばれるものの中にマントラの朗誦など、非常に多彩な実践が含まれていたことを明らかにした。さらに高橋は、マハーバーラタに含まれる、いわゆる初期サーンキヤ、初期ヨーガ思想をアディヤートマ思想という概念のもとに一括して扱い、ウパニシャッドからの伝統の継承を重視して、たとえば一神論的叙述は無神論的叙述より新しいというような定説を見直すことを提唱した。以上のものとそれ以外のBの研究成果については、Journal of Indian Philosophyの特別号として出版する予定である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 Yuko Yokochi	4. 巻 なし
2. 論文標題 A Goddess shrine in the Gopika Cave on the Nagarjuni Hill and its description in the Gaudavaho.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Epigraphy, Select papers from the Panel on Epigraphy at the 16th World Sanskrit Conference, Bangkok, Thailand.	6. 最初と最後の頁 157-174
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 横地優子	4. 巻 なし
2. 論文標題 ヒンドゥー教の形成とヒンドゥー美術	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア仏教美術論集：南アジア1 マウルヤ朝--グプタ朝	6. 最初と最後の頁 539-561
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Bisschop Peter C.	4. 巻 61
2. 論文標題 Buddhist and Saiva Interactions in the Kali Age	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Indo-Iranian Journal	6. 最初と最後の頁 396 ~ 410
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1163/15728536-06104002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Bisschop, Peter C.	4. 巻 -
2. 論文標題 Vedic Elements in the Pasupatasutra	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Lucien van Beek et al. (eds.), Farnah. Indo-Iranian and Indo-European Studeis in Hornor of Sasha Lubotsky. Ann Arbor: Beech Stave Press	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Bakker Hans	4. 巻 61
2. 論文標題 A Buddhist Foundation in Sardiysa	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Indo-Iranian Journal	6. 最初と最後の頁 1~19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1163/15728536-06101001	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takahashi Kenji	4. 巻 -
2. 論文標題 The Manas and the Manovah? Channel in the Varsneyadhyatma of the Mahabharata: A Critical Reading of Mahabharata 12.207.16-29	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Indian Philosophy	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10781-019-09387-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takahashi Kenji	4. 巻 67.3
2. 論文標題 Gone with the Wind: The Five Elements and Continuity of the Self as Fire or Wind in the Bhṛubharadvajasamvada (Mahabharata 12.175-185)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Indian and Buddhist studeis	6. 最初と最後の頁 1055-1058
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hans Bakker and Peter Bisschop	4. 巻 -
2. 論文標題 Pasupatasutra 1.7-9 with the Commentary of Kaundinya	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Online publication in Academica.edu	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Acharya Diwakar	4. 巻 45
2. 論文標題 On the Meaning and Function of adesa in the Early Upanisads	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Indian Philosophy	6. 最初と最後の頁 539 ~ 567
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10781-017-9321-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋健二	4. 巻 12
2. 論文標題 ヨーガの修行と心 : Anugita 15 (Mahabharata 14.30) におけるアラルカ王のヨーガ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 南アジア古典学	6. 最初と最後の頁 235-255
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Harimoto, Kengo	4. 巻 65.3
2. 論文標題 The Epistemology of the Author of the Patanjalyogasastravivarana.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Indian and Buddhist Studies	6. 最初と最後の頁 1101-1108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Bakker, Hans & Peter Bisschop	4. 巻 59
2. 論文標題 The quest for the Pasupata Weapon: the gateway of the Mahadeva Temple at Madhyamika (Nagari)	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Indo-Iranian Journal	6. 最初と最後の頁 217-258
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1163/15728536-05903011	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 Bisschop, Peter	4. 巻 なし
2. 論文標題 India and the Making of Hinduism; The contribution of the Puranas.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Religion and Orientalism in Asian Studeis. Ed. by kiri Paramore. Bloomsbury Academic, London.	6. 最初と最後の頁 39-50, 165-166
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計52件 (うち招待講演 20件 / うち国際学会 26件)

1. 発表者名 横地優子
2. 発表標題 8--9世紀のカシュミールにおける理想の王の文学的表象
3. 学会等名 「インド世界の形成：フロンティア地域を視座として」研究会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yuko Yokochi
2. 発表標題 Pasupatayoga in the Skandapurana
3. 学会等名 2021 2nd RINDAS International Symposium `Reconsidering the early history of Yoga and Samkhya' (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yokochi Yuko
2. 発表標題 mahaganapatir bhavati: Gana-hood as a religious goal in the early Shaivism
3. 学会等名 The 17th World Sanskrit Conference, Univ. of British Columbia, Vancouver (国際学会)
4. 発表年 2018年

1 . 発表者名 Bisschop, Peter C.
2 . 発表標題 The Sivadharmasastra: Composition, Transmission and Revision
3 . 学会等名 The 17th World Sanskrit Conference, Univ. of British Columbia, Vancouver ( 国際学会 )
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Bisschop, Peter C.
2 . 発表標題 Trumping the Mahabharata: The Skandapurana ' s portrayal of Vyasa
3 . 学会等名 the Asia Beyond Boundaries Conference, Leiden University ( 国際学会 )
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Bakker, Hans
2 . 発表標題 No Texts without Archaeology no Archaeology without Texts: An inquiry into the history of the Hunas in South Asia
3 . 学会等名 The 24th Conference of the European Association for South Asian Archaeology and Art ( 国際学会 )
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Bakker, Hans
2 . 発表標題 Transdisciplinary Perspectives on Primary Sources from the Premodern World:The Skandapurana and Bana ' s Harsacarita
3 . 学会等名 the Asia Beyond Boundaries Conference, Leiden University ( 国際学会 )
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Vasudeva, S.D.
2 . 発表標題 Systems of Wheels (cakra), Lotuses (padma) and Circles (mandalas) in Esoteric Saiva and Sakta Yoga
3 . 学会等名 Yoga and Sufism: Kenan Rifai Center for Sufi Studies, Kyoto University (招待講演) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Vasudeva, S.D.
2 . 発表標題 The Cakra System of Early Kaula Yoga: Keynote lecture
3 . 学会等名 Yoga, Movement, and Space. Doshisha University, Kyoto (招待講演) (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Vasudeva, S.D.
2 . 発表標題 Preksapurvakarita vs. Krida in the Panel `Binding Liberation'
3 . 学会等名 The 17th World Sanskrit Conference, Univ. of British Columbia, Vancouver (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Harimoto Kengo
2 . 発表標題 A Stage in the Development of Arguments for the Buddha's Omniscience? Three unidentified folios in Xc14/1d, photographed by Rahula Sankrityayana, preserved in the Library of the University of Goettingen
3 . 学会等名 International Workshop: Prajnakaragupta on Yogic Perception: Direct Insight from Abstract Truth. Institute for the Cultural and Intellectual History of Asia. Vienna, Austria (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1. 発表者名 Harimoto Kengo
2. 発表標題 Rejecting Samsara in the First Place in the Panel `Binding Liberation`
3. 学会等名 The 17th World Sanskrit Conference, Univ. of British Columbia, Vancouver (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 張本研吾
2. 発表標題 『ヨーガバーシュヤ』とダルマキールティ(1) : 全知者証明に関して
3. 学会等名 第29回西日本インド学仏教学会学術大会(九州大学)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takahashi Kenji
2. 発表標題 Adhyatma Discourses in the Mahabharata: A New Perspective to the History of Yoga
3. 学会等名 International Conference, Yoga, Movement, and Space. Doshisha Univ., Kyoto (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋健二
2. 発表標題 死後における自己の連続性と五元素 : Mahabharata 12.175-185 におけるブリグとパラドヴァーージャの対話の研究
3. 学会等名 第69回印度学仏教学会、東洋大学
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋健二
2. 発表標題 ヴェーダ祭式学とアディヤートマ哲学
3. 学会等名 第11回ヴェーダ文献研究会, 京都大学
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Achayra, Diwakar
2. 発表標題 On the Upanisadic Self
3. 学会等名 Lecture at Fudan Univ., Shanghai (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Acharya, Diwakar
2. 発表標題 Skilful, Mindful and Equanimous: Philosophy and Practice of Yoga
3. 学会等名 Lecture at Yunnan Minzu Univ., Kunming (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yokochi Yuko
2. 発表標題 'Composition-in-Transmission': Some Remarks on the transmission of Sanskrit texts and manuscripts
3. 学会等名 Universitat Hamburg-Kyoto University Symposium (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yokochi Yuko
2. 発表標題 The Shaiva cosmography in the Shivadharmottara
3. 学会等名 33. Deutschen Orientalistentag, Jena (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yokochi Yuko
2. 発表標題 The Kapphinabhyudaya and the Sisupalavadha
3. 学会等名 International Workshop on pre-Modern Kashmir 2018, Kyoto Univ. (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 横地優子
2. 発表標題 王権儀礼から見た仏教と女神信仰の共存 Tapa Sardar僧院遺跡をめぐって
3. 学会等名 ブラフマニズムとヒンドゥイズム第4会シンポジウム「古代・中世インドの儀礼・制度・社会」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Bisschop, Peter
2. 発表標題 Buddhism and Shaivism: The Karandavyhasutra, the Skandapurana and the Shivadharmā
3. 学会等名 Conference of Buddhist Studies, Leiden Univ. (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Bisschop, Peter
2. 発表標題 Brothers in Arms or Brothers in Trouble? The twin shrine, column and Varaha at Eran
3. 学会等名 The 228th Meeting of the American Oriental Society, Pittsburgh (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 張本研吾・加納和雄
2. 発表標題 全知者存在証明議論の一断面? - ゲッティンゲン大学所蔵ラーフラ・サーンクリティヤーヤナ撮影梵文写本Xc14/1d中の実同定3葉について
3. 学会等名 インド思想史学会第24回学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Takahashi, Kenji
2. 発表標題 Adhyatma Discourses in the Kathopanisad and the Mahabharata
3. 学会等名 8th Dubrovnik International Conference for Sanskrit Epics and Puranas, Dubrovnik (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Takahashi, Kenji
2. 発表標題 The Self as Mental Existence in the Dialogue between Bhrigu and Bharadvaja in Mahabharata 12.175-185
3. 学会等名 9th International Indology Graduate Research Symposium, Ghent (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高橋健二
2. 発表標題 Satapathabrahmana 10.5.3の創造説におけるmanas-について
3. 学会等名 インド思想史学会第24回学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Saito, Akane
2. 発表標題 Essence of Speech as the Highest Reality in Mediaeval Kashmir
3. 学会等名 International Workshop on pre-Modern Kashmir 2018, Kyoto Univ. (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 横地優子
2. 発表標題 ハルシャ王と女神信仰
3. 学会等名 第61回国際東方学会議関西西部会 (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 横地優子
2. 発表標題 「パーシュパタヨーガ儀軌」におけるヨーガの定義
3. 学会等名 日本印度学仏教学会第67回学術大会
4. 発表年 2016年



1. 発表者名 Yokochi, Yuko & Peter Bisschop
2. 発表標題 Pasupatayoga in the Skandapurana
3. 学会等名 Sansrit Texts on Yoga: A Manuscript Workshp (Hatha Yoga Project) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 横地優子
2. 発表標題 パーシュバタ派ヨーガにおけるmahavrata
3. 学会等名 「ブラフマニズムとヒンドゥイズム」第2回シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Harimoto, Kengo
2. 発表標題 Patanjala-yogasastra in the history of the concept of yoga
3. 学会等名 2016年度RINDAS第1回伝統思想研究会 (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Vasudeva, Somdev
2. 発表標題 The Esoteric Yogas and their relation to other systems of Yoga
3. 学会等名 2016年度RINDAS第1回伝統思想研究会 (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Harimoto, Kengo
2. 発表標題 Patanjalayogasastravivarana on Yogasutra 1.7 and 8
3. 学会等名 Sansrit Texts on Yoga: A Manuscript Workshp (Hatha Yoga Project) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Bakker, Hans T.
2. 発表標題 Monuments of Hope, Gloom and Glory in the age of the Hunnic wars: 50 years that changed India (484-534)
3. 学会等名 24th Gonda Lecture (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Bakker, Hans T.
2. 発表標題 Monuments of Hope, Gloom and Glory in the age of the Hunnic wars: 50 years that changed India (484-534)
3. 学会等名 Bakker博士講演会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高橋健二
2. 発表標題 Manavadharmasasthra第1章とMahabharata12.224-225における創造・帰滅説の編纂過程の再考
3. 学会等名 インド思想史学会第23回学術大会
4. 発表年 2016年

1 . 発表者名 Vasudeva, Somdev
2 . 発表標題 Yogayajnavalkya
3 . 学会等名 Sanskrit Texts on Yoga: A Manuscript Workshp (Hatha Yoga Project)
4 . 発表年 2016年

1 . 発表者名 Takahashi, Kenji
2 . 発表標題 Mental Principles in the Yoga school: A Historical Perspective
3 . 学会等名 The 8th Annual Middle European Student Indology Conference (国際学会)
4 . 発表年 2016年

1 . 発表者名 Takahashi, Kenji
2 . 発表標題 Buddhi, ahamkara, manas in the teaching of Yoga in Mahabharata 12.203-210
3 . 学会等名 Yoga darsana, yoga sadhana: traditions, transmissions, transformations. (国際学会)
4 . 発表年 2016年

1 . 発表者名 Bisschop, Peter
2 . 発表標題 Rudra in the Narayaniya versus Visnu in the Skandapurana.
3 . 学会等名 The 2nd Zurich International Conference on Indian Literature and Philosophy
4 . 発表年 2016年

1. 発表者名 Yokochi, Yuko
2. 発表標題 A goddess shrine in the Gopi Cave on the Nagarjuni Hill and in the Gaudavaho
3. 学会等名 The 16th World Sanskrit Conference (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Yokochi, Yuko
2. 発表標題 Some problems in the Pasupatayogavidhi
3. 学会等名 Seminar of 'Reconsidering the early history of Yoga and Samkhya'
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Yokochi, Yuko
2. 発表標題 The Mothers and Skanda in the Skandapurana
3. 学会等名 The Archaeology of Bhakti III: The Bhakti of Minor Dynasties (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Yokochi, Yuko & Satoshi Ogura
2. 発表標題 From Allah to Isvara: a preliminary study in Srivara's Kathakautuka
3. 学会等名 International Workshop on pre-modern Kashmir 2015 (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Yokochi, Yuko
2. 発表標題 Pasupatayogavidhi, Chapter 1
3. 学会等名 Seminar of `Reconsidering the early history of Yoga and Samkhya'
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Takahashi, Kenji
2. 発表標題 Evolution of rajas in the Varsneyadhyatma
3. 学会等名 2021 2nd RINDAS International Symposium `Reconsidering the early history of Yoga and Samkhya' (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Harimoto, Kengo
2. 発表標題 Hiranyagarbha's Yoga system
3. 学会等名 2021 2nd RINDAS International Symposium `Reconsidering the early history of Yoga and Samkhya' (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Vasudeva, Som Dev
2. 発表標題 The yogas of the Yogayajnavalkya
3. 学会等名 2021 2nd RINDAS International Symposium `Reconsidering the early history of Yoga and Samkhya' (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Acharya, Diwakar
2. 発表標題 The Non-existent, the Unmanifest and the Great: Changing notions of asat, avyakta and mahat in the Brahmanas, Upanisads and beyond
3. 学会等名 2021 2nd RINDAS International Symposium `Reconsidering the early history of Yoga and Samkhya' (招待講演)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 Peter C. Bisschop and Yuko Yokochi	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Brill	5. 総ページ数 304 + x
3. 書名 The Skandapurana Volume V, Adhyayas 96--112. The Varaha and the Andhaka Cycle continued.	

1. 著者名 Bisschop, Peter C. and Yuko Yokochi in cooperation with Diwakar Acharya and Judit Torzsok	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Brill	5. 総ページ数 x + 373
3. 書名 The Skandapurana Volume IV, Adhyayas 70-95. Start of the Skanda and Andhaka Cycles. Critical Edition with an Introduction & Annotated English Synopsis.	

1. 著者名 Bisshop, Peter C.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Brill	5. 総ページ数 viii + 221
3. 書名 Universal Saivism. The Appeasement of All Gods and Powers in the Santyadhyaya of the Sivadharmasastra.	

1. 著者名 Bakker, Hans	4. 発行年 2017年
2. 出版社 J.Gonda Fund Foundation of the KNAW, Amsterdam	5. 総ページ数 67 pp.
3. 書名 Monuments of Hope, Gloom, and Glory in Age of the Hunnic Wars. 50 years that changed India (484-534).	

1. 著者名 Vasudeva, Somdev	4. 発行年 2017年
2. 出版社 龍谷大学	5. 総ページ数 16
3. 書名 The Saiva Yogas and their Relationship to Other Systems of Yoga. RINDAS Series of Working Papers: Traditional Indian Thoughts 26	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>The Skandapurana Project  <a href="https://www.universiteitleiden.nl/en/research/research-projects/humanities/the-skandapur&amp;#257;&amp;#7751;a-project#tab-1">https://www.universiteitleiden.nl/en/research/research-projects/humanities/the-skandapur&amp;#257;&amp;#7751;a-project#tab-1</a>  Academia Edu: Yuko Yokochi  <a href="https://kyoto-u.academia.edu/YukoYokochi/">https://kyoto-u.academia.edu/YukoYokochi/</a>  京都大学教員データベース：横地優子  <a href="https://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/q11pR">https://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/q11pR</a>  The Skandapurana Project  <a href="https://www.universiteitleiden.nl/en/research/research-projects/humanities/the-skandapur%C4%81%E1%B9%87a-project#tab-1">https://www.universiteitleiden.nl/en/research/research-projects/humanities/the-skandapur%C4%81%E1%B9%87a-project#tab-1</a>  京都大学教員データベース  <a href="https://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/q11pR">https://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/q11pR</a>  Academia Edu  <a href="https://kyoto-u.academia.edu/YukoYokochi/">https://kyoto-u.academia.edu/YukoYokochi/</a>  京都大学教員データベース  <a href="https://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/q11pR">https://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/q11pR</a>  Academia edu  <a href="https://kyoto-u.academia.edu/YukoYokochi">https://kyoto-u.academia.edu/YukoYokochi</a>  Skandapurana Project  <a href="http://hum.leiden.edu/lia/skandapurana-project/">http://hum.leiden.edu/lia/skandapurana-project/</a>  京都大学教員データベース  <a href="https://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/q11pR">https://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/q11pR</a>  Academia Edu  <a href="https://kyoto-u.academia.edu/YukoYokochi">https://kyoto-u.academia.edu/YukoYokochi</a></p>
---

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	アーチャールヤ ディワーカー (Acharya Diwakar)		

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	ビショップ ピーター  (Bisschop Peter C.)		
研究協力者	張本 賢吾  (Harimoto Kengo)		
研究協力者	高橋 健二  (Takahashi Kenji)		
研究協力者	斎藤 茜  (Saito Akane)		
研究協力者	バックナー ハンス  (Bakker Hans)		
研究協力者	トルツォック ユディット  (Torzsok Judit)		
研究協力者	ドクトル・メルシュ サンナ  (Dokter-Mersch Sanne)		
連携研究者	ヴァースデーヴァ ソームデーヴ  (Vasudeva Som Dev)  (10625594)	京都大学・文学研究科・教授    (14301)	



7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計12件

国際研究集会 2021 2nd RINDAS International Symposium `Reconsidering the early history of Yoga and Samkhya'	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 Skandapurana Workshop	開催年 2016年～2020年
国際研究集会 Reconsidering the early history of Yoga and Samkhya: the 7th seminar	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 Reconsidering the early history of Yoga and Samkhya: the 8th seminar	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 Reconsidering the early history of Yoga and Samkhya, the 5th Seminar	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 Reconsidering the early history of Yoga and Samkhya, the 6th Seminar	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 International Workshop on pre-Modern Kashmir 2018	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 Reconsidering the early history of Yoga and Samkhya, the 3rd Seminar	開催年 2016年～2016年
国際研究集会 Reconsidering the early history of Yoga and Samkhya, the 4th Seminar	開催年 2016年～2016年
国際研究集会 Reconsidering the early history of Yoga and Samkhya: the 9th seminar	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Reconsidering the early history of Yoga and Samkhya: the 1st seminar	開催年 2015年～2015年
国際研究集会 Reconsidering the early history of Yoga and Samkhya: the 2nd seminar	開催年 2015年～2015年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
英国	オックスフォード大学			
イタリア	ナポリ東洋大学			
タイ	マヒドン大学			
フランス	Ecole Pratique des Hautes Etudes			
オランダ	ライデン大学	フロニンゲン大学		

共同研究相手国	相手方研究機関			
フランス	リレ大学			